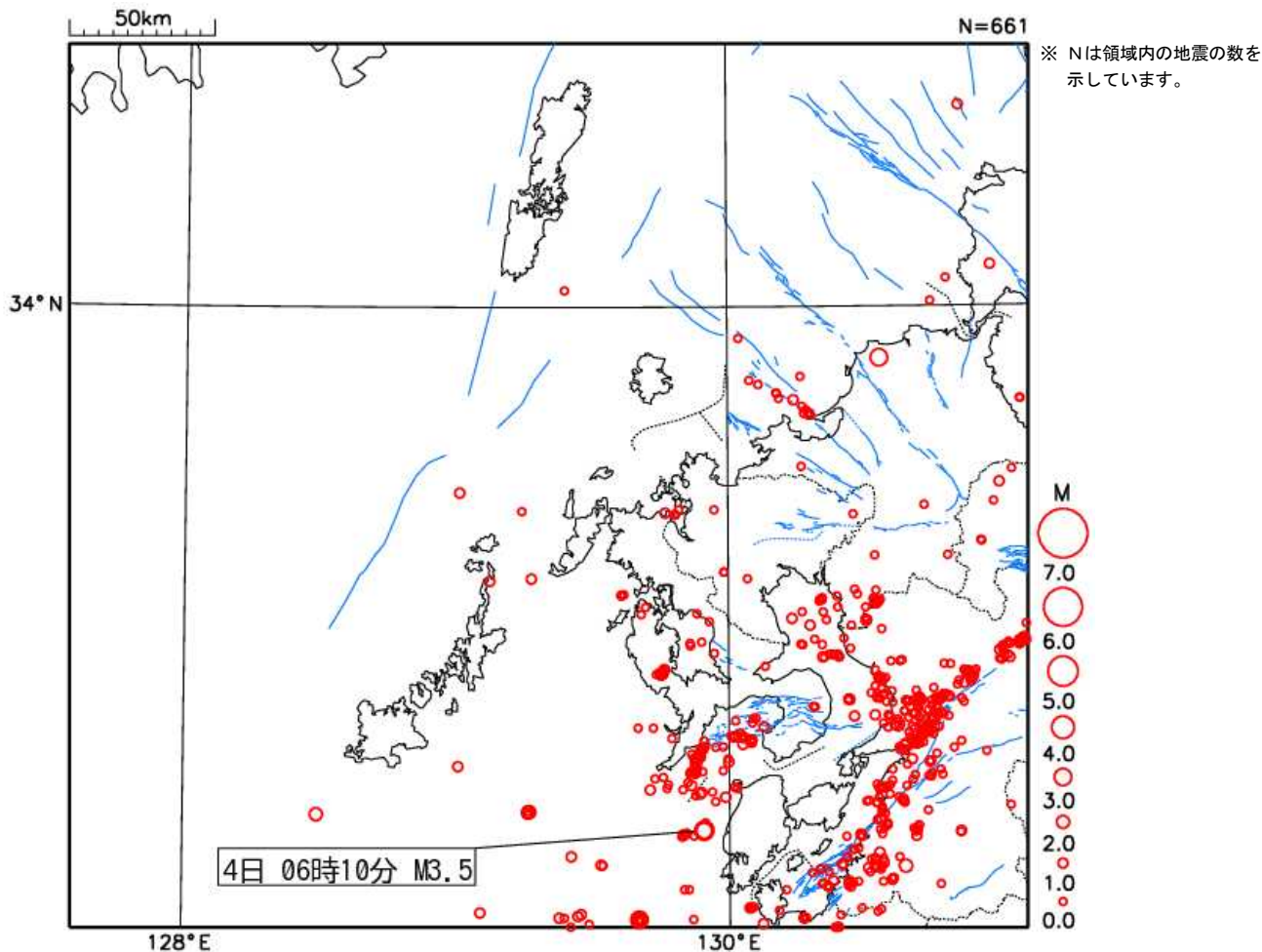


長崎県の地震活動概況 (2024年2月)

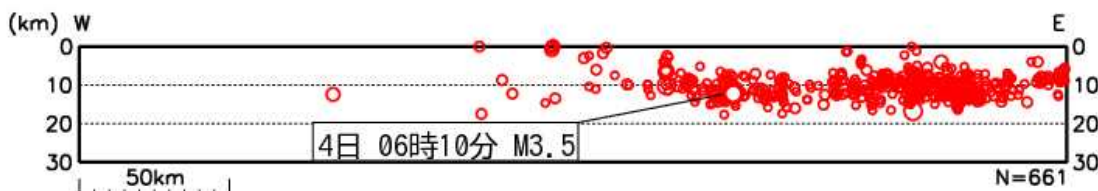
令和6年3月8日
長崎地方気象台

地震活動の概況 (2024年2月)

2月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は1回でした(1月は3回)。詳細は2ページのとおりです。



震央分布図 (2024年2月1日~29日、深さ30km以浅、M \geq 0.0)
※図中の青色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。



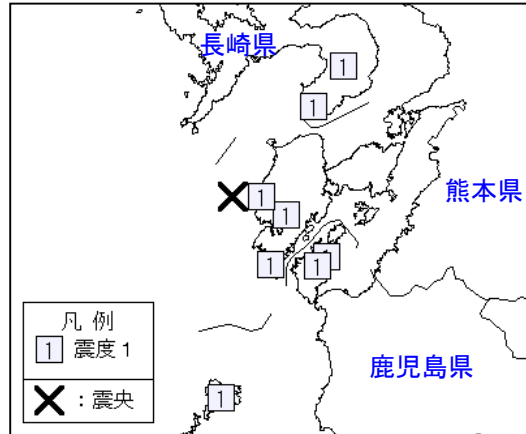
断面図 (2024年2月1日~29日、深さ30km以浅、M \geq 0.0)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

天草灘

4日06時10分に天草灘で発生したM3.5の地震（深さ12km）により、長崎県、熊本県、鹿児島県で震度1を観測しました。長崎県では雲仙市、南島原市で震度1を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図2領域a）では、2023年4月29日にM3.8の地震（深さ13km 最大震度2）が発生し、長崎県では長崎市、雲仙市及び南島原市で震度1を観測しました（図2、図3）。



2月4日06時10分 M3.5
図1 震度分布図（観測点別）

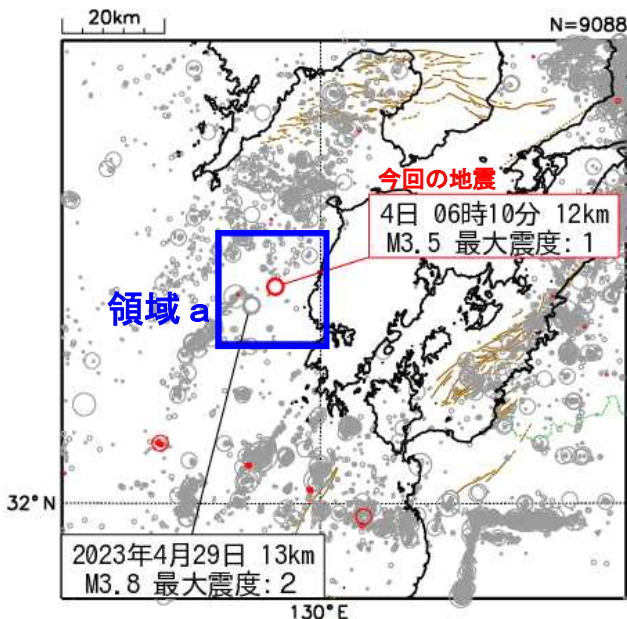


図2 震央分布図

(1997年10月1日～2024年2月29日 深さ0km～30km M≥1.5)

※2024年2月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

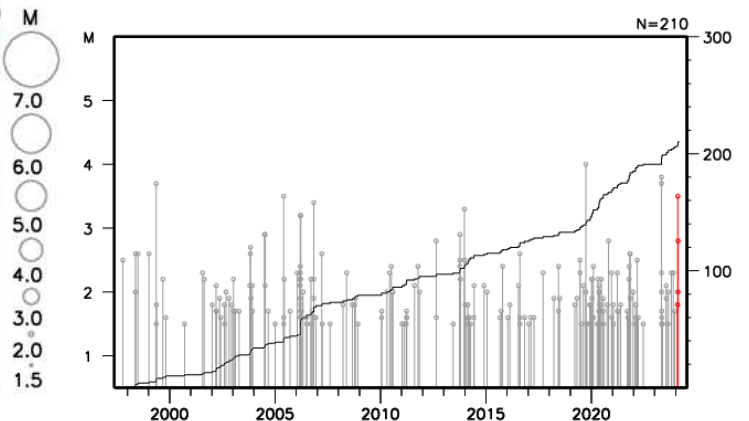


図3 図2領域a内の地震活動経過図と回数積算図

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（2024年2月1日～29日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2024年02月04日06時10分 震度 1：雲仙市小浜町雲仙, 南島原市加津佐町*	天草灘	32° 22.8' N	129° 54.4' E	12km	M3.5

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

南海トラフ地震 ～その時に備えて～

今から13年前、2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生し、強い揺れと高い津波により東日本に甚大な被害をもたらしました。西日本でも「南海トラフ地震」により大きな被害が生じるおそれがあります。

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として、概ね100～150年間隔で繰り返し発生し、大きな被害をもたらしてきた大規模地震です。

前回の南海トラフ地震が発生してから約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生 of 切迫性が高まっています。

次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。

南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合等に、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報」を発表します。

政府や地方公共団体からの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

ただし、南海トラフ地震の発生は不確実性を伴うため、情報が発表されても地震が発生しない場合や、情報の発表がないまま突発的に南海トラフ地震が発生する場合も考えられます。このため、南海トラフ地震に適切に対応するためには、日頃から地震への備えをしておくことが重要です。

自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう。



南海トラフ地震 臨時情報

キーワード

- 調査中
- 巨大地震警戒
- 巨大地震注意
- 調査終了

- (発表条件)
- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 - 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
 - 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 - 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合
 - 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生したと評価した場合
 - 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生したと評価した場合
 - ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
 - 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ地震 関連解説情報

- 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合
- 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

地震の発生に備えよう

<p>□ 家具の固定</p>	<p>□ 非常用持ち出し袋の準備</p>	<p>□ 水や食料の備蓄</p>
<p>□ 避難場所や避難経路の確認</p>	<p>□ 感震ブレーカーの設置</p> <p>コンセントタイプ 分電盤タイプ(後付型)</p>	<p>□ 建物の耐震化</p>

南海トラフ地震に関することは、以下の気象庁ホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq.html>